

6 地域資源を活かした肉用牛経営体の育成

【成果の要約】

- 1 女性グループと新規就農者を対象に子牛の発育分析結果を活用した指導を行い、飼養管理技術が向上し、子牛の商品性向上につながった。
- 2 母牛の飼養管理改善指導として育成牛の栄養度改善を進めた結果、将来的な繁殖成績向上と母牛群の改良に寄与した。
- 3 トランスパーラの推進として省力的なばらまき法の有効性を確認し、普及促進と自給粗飼料の確保に寄与した。

1 対象

和泊町和牛振興会 134 戸
 知名町畜産振興会 47 戸
 与論町和牛改良組合 260 戸（うち、よろん和牛女子 12 戸）

2 課題を取り上げた理由

(1) 令和 7 年 1 月セリ市以降、子牛価格は前年より高値で推移しているものの、資材価格の高止まりにより、肉用牛農家の経営は依然として厳しい状況にある。

粗収益の増加を図るには、子牛の商品性向上や繁殖率の改善に加え、熱中症などの子牛事故を防ぐ観点から暑熱対策の強化が必要である。

さらに、経営基盤を安定させる上では、自給粗飼料の生産拡大による購入粗飼料費の低減が求められている。

3 活動内容と成果

(1) 子牛商品性向上の確立

ア 肉用牛女性グループ及び新規就農者への支援

よろん和牛女子 12 戸を対象に、毎回の子牛セリ市出荷牛の発育状況を調査・分析し、その結果を各会員にフィードバックした（表 1）。これにより、子牛育成に対する意識がさらに高まり、飼養管理技術の向上につながった。

また、新規就農者に対しても同様の分析結果を活用し、個別指導を実施した。

畜種	品種	性別	年齢	飼育期間	飼料	飼料費	飼料当り	セリ価格		セリ価格		コメント				
								平均	標準	平均	標準					
牛	和牛	♀	17	263	286	3	20	600,000	619,836	1.04	1.08	2,281	2,170	2,381	2,330	発育良好、肉質も良い。近頃美味しいブランド価格がつかまりつつあり、年次改善も高くないので、5ヶ月齢以降もう少し飼料を減らし、体脂肪を減らしても良いのでは？
牛	和牛	♀	201	228	289	-27	20	548,000	619,836	0.89	1.08	2,298	2,170	2,431	2,330	発育は良好。股しもか。体にはまだ余裕があるので、5ヶ月齢以降もう少し少くアップしてはどうでしょうか？
牛	和牛	♀	363	276	286	45	20	867,000	619,836	1.19	1.08	2,417	2,170	2,621	2,330	発育良好、肉質も良い。股しもか。近頃は高値で取引されているので、6ヶ月齢以降もう少し減らしても良いのでは？
牛	和牛	♀	129	259	273	5	2	741,000	619,836	1.02	0.99	2,522	1,915	1,799	1,900	発育良好なし。背筋が少し低く股も少し低く、体脂肪も少し多いので、もう少し減らしても良いのでは？
牛	和牛	♀	261	254	273	7	-2	593,000	619,836	1.03	0.96	2,320	1,915	2,103	1,900	発育良好。股も良い。

表 1 セリ市毎の分析表（緑色は市場平均より優れている）



写真 1 会員の牛舎での現地研修

(2) 母牛の飼養管理向上支援

ア 育成牛の栄養度改善指導

育成牛の登録審査等を活用し、栄養度改善指導を行うことで、将来的な繁殖成績の

向上が期待される。

併せて、発育良好な繁殖素牛の保留を推進し、地域全体の母牛群改良を図った。

(3) 子牛の暑熱対策

ア 牛舎の暑熱対策支援

沖永良部畜産部会において、子牛セリ市場係留所屋根（写真2）及び実証農家1戸の牛舎屋根に消石灰を塗布し、その効果を農家に周知した。

その結果、今年度は13戸（昨年度12戸）が消石灰塗布を実施し、取り組みの普及が進んでいる。



写真2 消石灰塗布により白くなった屋根

(4) 自給粗飼料の確保支援

ア トランスバーラの効率的な栽培支援

実証農家1戸において、条植法及びばらまき法によるトランスバーラの定着状況を検証した。

条植法（写真3）がやや優れてはいたものの、ばらまき法（写真4）でも同等の定着が確認されたため、今後は省力的なばらまき法を推進することとしている。



写真3 条植法（密生して定着した）



写真4 ばらまき法（赤丸部分で裸地あり）

また、沖永良部畜産部会において展示ほ場を新設（写真5）し、トランスバーラの普及啓発を行った。



写真5 トランスバーラ展示ほ場

4 今後の課題

- (1) 改訂版子牛育成飼料給与マニュアルの普及による子牛商品性向上
- (2) 暑熱対策のさらなる推進
- (3) トランスバーラ栽培面積拡大による自給粗飼料の確保

5 担当した普及職員（○印はチーフ）

○川野洋，満吉俊也